[illegible] 下

ヲ 6
1235
2 2

明治九年十一月十五日

高(たか)き屋(や)にのぼりて叡覧(えいらん)ありしむかしにかはらぬか
まさりし浪花(なにわ)は繁昌(はんじやう)日の本第一の大湊(おほみなと)にて
士農工商(しのうこうしやう)おほし其地のにぎはしく諸色(しよしき)ハおほけ
次第(しだい)なくさまハ住(すみ)なれし遊(あそ)び次第なく其
ことしくも名がゆる人(ひと)ハところ八の松のおち葉(ば)など散(ちり)
つらすまじきを老(おい)おもする尉(ぜう)が筆(ふで)のさきくまさよせる
事ハあらざれどもてハさんろが囮(お)ひし箜篌(くご)ハ
塵も掃(はら)へし老を浮(うき)ものならで前後(ぜんご)の混(こん)ぎらぬ
又ちらちらしるところハ居る人のゆるし至へりしと
おやまりてかしこ

法施

侠客

衣類のこのミ髪の結やうハ時めく姿のりゝ敷投頭巾よ
揚ぐんちやく尺八ふしよさしあるく事あれバ気色
あけまども人の為にハいのちをすつる大坂のおとこ
いふ今は絶へども少なし名ハ
十二浜の中でも だけ市 仏の平兵衛 ちしやの小八
おんぼ 喜右衛門の倅ぢへけん坊の市七 熊谷の勘七 山又郎
鬼平 あぶ熊 八 字兵衛 たつ弥の治兵衛 ごくの忠七
こしき佐之へ 京清 のの吾助 天満で 米の三郎兵衛
北堀で天甚 茶屋孫の文次郎 横堀で吉左衛門 西横堀で正三

堀江で 塩屋 豆屋 むくろの清七 あハざで そろ弥
ある屋町で よど治 岩友 あんだ新地で 市郎兵衛 白子町の
三本吉 さこぞて おん虎 かぢ平 ごま半

畸人

浪花ハ雄の大きるを常有の好士あまたにして挹
ありて 大道の為を好るあり 諸芸堪能ふしぎく人ハ
あるもあり人ハまきもて楽しむもあり 夫が中より殊に
人の及びがたきわざ 人ハ知るまし 雑人達の中でも
炭又郎 かど林 鍛冶郎 あぶ忠 毛馬五 佃屋 丸平
平清 箕三 植吉 鷺見屋 鉄格子 蒹葭 鳴岩

採案 寂門 菊翁 悦甫 有竹 宗ワ 拙翁
蓼太 京佐吉 多門 年紗 泰田 蓮月 百童
遮莫 園巴 蘆橋 東南 さら むら九 土佐八
ろま 如軒 舎旅 角老人 呂吉 中さく 天正
冨枡屋 十畏舎 沢枕庵 蒔東 千阿弥 鄭彰 一万鳥
馬物 河四郎 今だし 茶音 岩田屋 小鶴や ちん女
車古彰 名り香 鳴鑢 杏もよ すゞ女 鶴垣
雅婦 姫氏国の風をあまりたハ
二世芸女 久米女 河太郎妻 小川屋妻 泰川のいとと
今後の宴 東南の妻 くひのぶ

角力

すまひハ野見の宿祢當麻の蹶速が力くらべを始めとしていにしへハ七月の小とりつがひとて禁庭にて相撲しむといへり其後まゝとつて四方の関所をもうけしむより力者を大関の名あり今ハ堀江に晴天十日の勧進すまふ六むしより絶えして流しあづまの大会山陽山陰南海の強力つどひあつまる事余国にまさりて是を相手によみなしむ

大坂がさの関取かぞへハ
千田川 高砂 鄕押どし 折尾川 陣幕 釈ヶ嶽 秋の浦
山彦ヶ谷 松浦川 志ヶ嶽 竹ヶ嶽 陣ヶ岳 谷風 龍山

常岩 中川 松尾山 赤井川 びわの海 三笠聖 高尾浜
出来山 のきの海 すゞ山 鳴津風 八つまさ 雪おろし 獅子ヶ鼻
鷲の尾
又ハ 岩嵐 鳴猫 岩ヶ谷 和田川 一の川 大よど 荒波
若松川 友ちどり 高砂 鳴滝 しのゝめ 大岩
頭取ハ 錦日山 間瀬ぐさ 三保が関 嵐ヶ嶽 みなと
後見 岩友 花之垣
世話人ハ 大見 名とり川 いさ熊 二ツ川 大ひ沼 小ホ瀧
行司ハ 玉之助 勝之助
とりよりで 郷下詰 百メ

麩屋ハ 天満のいけ吉 屋どん堀の上ミ麩 太宝寺町の近江屋
豆腐ハ 高津の小八 高知屋 丸すや のりやハ 堺すじ油伊
魚屋ハ 河六 さゝ屋 三よしや 植木ハ 吉助うへ清 花屋ハ
角清 造り花ハ みの三 花八 飛脚ハ 小和田屋 いづ孫 明石屋
風呂屋ハ 扇湯 三川湯 大黒湯 あるゝ戸湯 額ぶろ 薬湯ハ
あんどの幸助 今文のうへ 木屋 年玉人口入ハ 人形屋のりや
こけらやかくみや 茶見せハくじや 茶屋 高津 京よし
宿屋ハ 留守ゑんゑんどう 備法屋 河加 あら利 山田屋 大黒屋
まゝ三 紀亭屋 太子屋 いろはや 天満 くまのや 若松屋 まゝ亀
さの平 末吉や 大八 扇や 津国や わこや 金物屋 石川屋 きの長

魚市

さこそハ大坂の名物にしていさぎよさ多他所に類せん鰹まつりの
夜市なりて賑ハし　問屋でハ　ちくさや　神ざき屋　あハや
大和屋　志布屋　源兵衛屋　あま忠　天吉　出買の中でハ
つまさ七　つまさ喜　二又左衛門　とべ長　売人の中でハ　佃嘉兵衛
讃岐屋　大和屋兵衛へ　あハ傳兵衛へ　えぐさ八左衛門　上づハ　やぐら
塩物干鰯　古座屋　天市　まつしや　小田屋　あまや

青物市

市の側に並んで天満の事と名高し　松茸市なりとて賑ハし
問屋ハ　魚喜　天又市　池市　えすや　山城屋　いづみ屋　魚屋

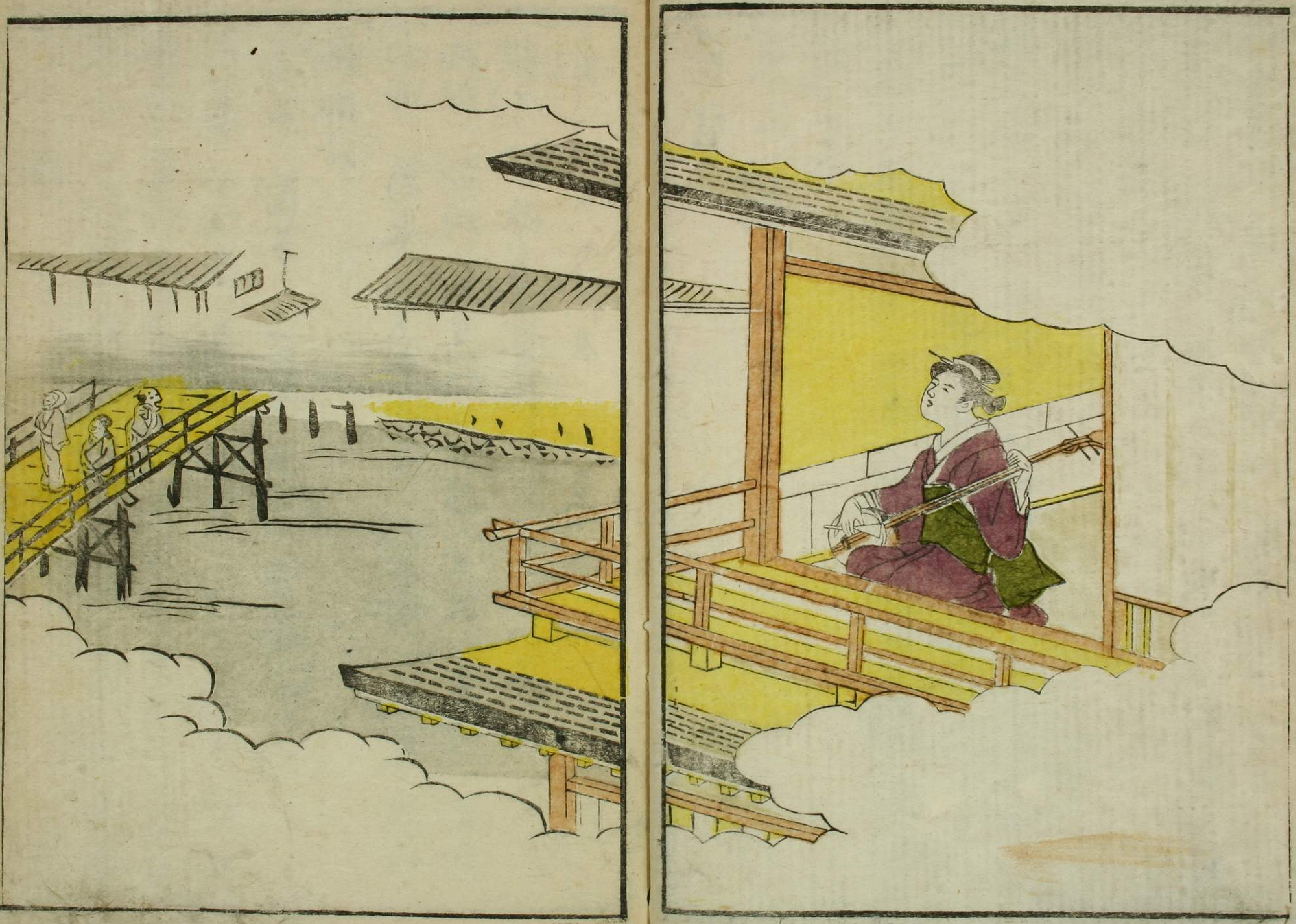
鮑惣　いつ善　堀江で　つまさ六　つまさ吉
干物ハ　大根屋　吉九　堀江で　岩作　菱惣

米市

北浜ハ大坂の眼にして六十余軒よしまひとつとなき米市
堂島風と名高き浜先家僕ハ此所の事之ま中よ
加島林　加島市　永平　堺屋　いセ武　丸幸　俵新
淡路　網動　あハ嘉　天嘉　福忠　俵屋　米惣
森屋　米喜　松万　いづ作　三六　天喜　山市
豊三　十嘉　吉久米　行司方ハ　中清　山市　平喜
あぶる　米吉　あぶ源　いの清　西智ハ　天源　西喜

大夫 山安 今六 天六八 大安 那古 鶴三 喜安 米三
豊後八 中国 吾七 利之荡 廣しめ 字八 治之荡 川猿屋
肥後 又七 河内屋 ありた 筑前 縁太 久富や かでた
かじ源 儀作三 橘屋でん たちばなや 米平
若狭八 ㊁ 忠七 ㊁ 一动七 ㊇千作之 やぐら為 やぐら
治之荡 ㊕ 清蔵 ㊕ 久之 園 治之 地蔵吉之 たいの
勘助 天上ノ勘七 てるの喜多 ちしだご小八

琵琶八
辰三 風也 坦斎
琴でん
蓮久吉 岩本のむすめ 米屋の照 平三の嫁 水のおつる
法師で 田村 廣瀬 久の都
瞽女でん いく江 沈香のお亀 千代崎 かつ崎
お為川 玉の光
尺八 與七
一方竹 ちょうろ よし栄 一勇 東堂 こくりん
一節切 暁竹 実竹九 三木



哥三弦

哥さみせんハ所〻のさらへ講など催しく好手あまたあれどもことごとく記さんハいと多かれバ中にも聞えたるを

いづ友　味噌安　茂惣　淀吉　尾市　菜玉　茶彩

遊篆　蘭子　三孫大　茂八　弥源　やけ又

法師八

松本　菊永　八重永　津山　和哥山　蔵永　村住

西村　江川　小野村　琴橋　玉沢　亀諸　三ツ橋

鼓弓八　政ど女孫玄濤

華八　大久保屋　利喜

和哥

歌ハ我日の本の神代よりはじまりて地下の者にしも学ぶべき事なりされどもさきの教へを請くるにも歌よみなどいふゆすり者一く此道をとてあそぶ人の中に浪花津で名ある人〻しるさし

有賀　園　河井　美屋　尾崎

狂歌

是も風雅の中の俳諧体にして多しむべきものなり鯛屋の流れを汲みしく当時より流行し寺院の奉納選文の造り物風呂屋の焚姫などまでよみ出る

甚ある事ぞかし すさ人あまたの中に
園丸のむまあ 小雄彦 梅好 一万集躰ハ 稲垣 未寺
連哥
此度ハ流花よとてあそぶ人帰りしく手妻しきを志るしを
少及びしも
里村 田中 江川
俳借
俳居ハ當時のこと抔すて傳医僧尼より妓女ちんと役者とを
俳名の付ざるハなし 名誉の人よハ
二柳 月居 一炊庵 大江丸 八千坊

雑俳
折句 冠附 揚付 みなし 絵あわせ 柳ざるもおなし
鳥郷 蓋好 荻凡 百宥 曲百 むつ女
西ハ
當時あまた流行の物ふしく筆意をとるふ人ハ
武禄 幽篤 榮林斎 藍江 周峯 周南 祖仙
月居 橘 玉山 桃渓 こき女 春泉
唐画ハ 旭江 梅原 鶴岳 呆山人 十時 東聖 濱田
鶴亭 蕙屋 再鳥斎の戯画ハ鳥羽の僧正に似ずして
流行家 松好の似画ハ百海の川歳をあざむけり

書ハ
流儀によりて能手多し　されども国字を書覚へし
我方屋の師匠をよしとすへし　名高き書家ハ
学半斎　与斎　葛川　戸田　筒井　宮東　西井
大字ハ正月堂　黒井　桜井　板下ハ大村　小松　正名

弓ハ
射術ハ武芸の第上なれども楊弓ハ今もてあそび物と
なりたり　もつはら流行して大金より朱中の位をとるなり
中にも名誉と云しハ
素月　仙化　紙屋　岩城　糸竹　金井　一九

学者
儒学者　中井
国学では　雄嵩　九鬼
紅毛学ハ　橋本　蒹葭堂
医師
古林　小泉　浅論　雲林院　中山　吉益
小児家では　荻田　高安　梶川
外科ハ　岩永　楢林　伊良子　田中　女医ハ　羽根　日下部
針術ハ　友井　桜坂ハ大原寺
歯医者ハ　兼康　穏婆ハ　宋女

灸治ハ　長門屋　笹ぢ　魁　寿かうえん　志んかんし
むつみとし　骨接ハ　源左衛門　奥田
卜者
周易の占を行ふ人世に甚だ多く　近世ハ人相家に
観相鏡ね手の篇ありとみゆる事大に流行より中にも名あるさハ
天文ハ　麻田　十一屋
易者ハ　田中　嵯峨堂
人相ハ　南北　南翁　家相　寛山　松浦
墨色ハ　大象院　八卦ハ　羽田　中村
陰陽師ハ　出世　薬師

鉢物好ハ
壺井屋　木津伊　油吉　平尾　椿翁　かト源　正慶尼
砥石ハ　柏木
燗火ゝ
近来流行のおもしろく浪花桔の夕まで云ふさへ松が端の
大小のせまい盆栽おびたゞしくよき見ごとく見ごとをまてあそぶ人多
池吉　五十川　鳥嶋屋　新助　むめぢ　かし十　霞篭
業てハ　あづまや　あふむや
結びものハ　木津伊
庖丁ハ　野口　有栖

独楽ハ先年大にはやりたれど　今ハすたれたり
其上手ハ　たゞ　辰巳屋の隠居
碁の妙手ハ
茶菴　鬼頭　七五郎　平の町の小吉
象戯さしてハ
安ゐ屋　小山屋　尺券　辰巳屋
網漁ハ
あこ茂　宇和じ為の孫兵衛　新市むらの平兵衛　なん九郎の庄
紙屋　本律屋
釣ハ
何兵衛

茶の湯
茶ハ千家の余風によりて上手の人より早く教へて
とくあそび成ハなし　其枝者の中にも
猪野　肉弁　稲垣　沓本　弁庄　筒井　亀さい
宗匠　無敵　平田　吉田屋
香ハ
この店に遊ぶ人の中に名ある者
蟠田　高須　専斎　本津政
立花ハ
池の坊の流年とおる人あまたの中に

尊光寺　油屋　木綿屋　向陽軒

生花ハ

当時大坊花まて寺社の献上近吾方を振し其中よ

松寿斎　優々堂　居斎

蹴鞠

鞠ハ堂上のあそびものなれども　町家にもうちまあり

茶平　うしまや　木村　小西　霊山堂　黒星

諸礼

此居よ紀しき人々の中よても

弁居　野田　木津侍

楽

楽ハ中どをき業なれバ其居の人をさし並素人にてハ

油池　錦照　乾泉寺　一瓢庵　辛川　木津の衣

西山　甲田　吉備氏　日野勒　いづ八

乱舞

能の太夫ハ四座の中楽をもとしく流花て好手ハ

小云　延命　木村　浜田　井坂　織之丞　鉄屋

服部ハ　中村　川上　青木

謡

園

藤井　大西　神田　曽我谷　津崎

素人でん六　三ツ石　川之助　いづも
狂言師
植島　野村　飛助　柳川　源六　平岡　松川
西井　高安
鼓八
大鼓ヱ　池上　西川　小鼓ヱ　小松原　小春　絆屋
才鼓八
橋本　中川　高安
笛八
岡村　志方　素人で　沢　稲垣

持余家
金銀といふものハ友だち中のよきものにしてあるところへハ
たびよりくさり居ところのすくなき所ハすこしもよりつかぬを
余所へ出ゆくまでもなく戻る事あきなひも銅犬を捨るより高し
そのあつまる所ハ広き大坂にて
鴻善　鴻善五　鴻又　辰巳屋　加島久　かど作　天五　平又　三井
いづ吉　米平　めし　油長　近休　吹六　鍵孫　助右　外平
茨木屋　山本　鴻市　鴻市　鴻庄　米长　平清　平仁　平彭
千草屋　鍔六　塲七　炭安　炭吾　加ド安　加重　油清　天市
肥前屋　布七　米長　稼吾　稼仁　絆吾　小橋伊　鴻利　日の松

太く屋　小梅九　綿武　堺佐　大利　吉兵　天六　山三郎　油吉
ひし屋　塩田屋　長伊　小吉　炭吾　越右　ひし彦　近仁　鴻清
尼市　さゝ市　近与　布平　布嘉　嶋武　ざこ三　小谷吉　吉又
信勘　室長　和又　天伊　蓮屋　大根屋　豊嶋屋

名高き家ハ
古市助　長源　くるみ屋　唐金　平又　堺庄　板孫　絵屋　太刀屋
志布子屋　川源　寺八　金庄　識吉　布吾　布長　鴻吾　淀三
木津屋　九平　油権　鉄庄　長治

金銀の出入の世話する人ハ
井筒屋　明石屋　大川屋　伊丹屋　河内屋　柳屋

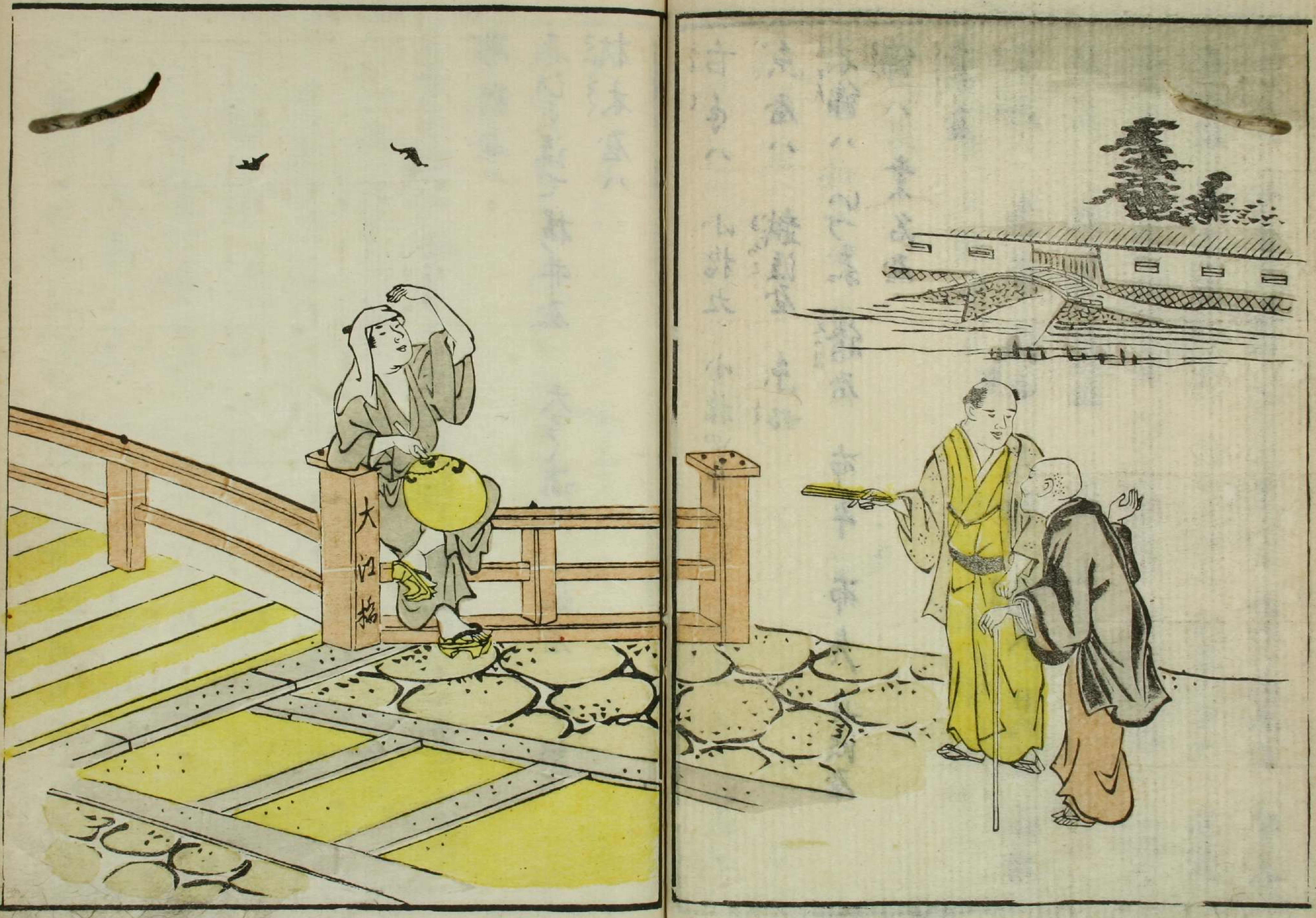
両替ハ
米平　柳平　三井　米喜　山炭安　山炭吉　山炭五郎
河吉　銭弥　外信　平新　大庭屋

廻船持
此ゝ船八方の繁栄の本なれバ是を造りて家督とす
津々浦々迄運送する人渡海の風俗をあらハせり

富 ちんぶや　和泉紙屋　富 富田屋　和泉外治郎　栗 くハ嶋や
和泉氏右衛門　川 大津屋　和泉市右衛門　川 一大つや　せんざう　又平次
小 小堀屋　和泉吉右衛門孫助　柏 かしわや　和泉与助　源右衛門
日野屋　せんどう孫右衛門　◇ 阿波屋　和泉浅右衛門

さらい[illegible] 堂ぢ花屋 和泉で×めし 吉めし 矢倉 灘で八
辰[illegible] 俵屋 木屋
川船持八めし
三十石八 大ぶつや 川六 大もゞや あハぢや
問屋八 江戸どや いづゝや 西国小屋の 綿屋八
肥後屋 備後屋 さつまや 油屋 佐伯屋 あまや
舩后具八
諸屋 和泉屋 有田屋
呉服屋八
三井 冨山 いづゝ 岩城 大松屋 小橋屋 大丸 友井

古手八 小橋九 小橋四郎
糸屋八 越後屋 糸好
木綿八 いづゝ和 綛屋 布平 布屋 丹波屋
綿八 葉名屋
薬屋
菓物八 鳥忠 梅由 大利 錫又 日の三 梅勝
近広 近仁 日の松
売薬八 小西の枸杞子園 沢の巨勝子円 吉野の三臓円 藪の
壺中円 吉文字屋の保元丹 浮田五龍円 油屋枇杷丸 数屋の
伯高丹 七ツ星又猿円 小川屋の黒丸子 西村の龍脳円 竹や


大江橋

ざし母丸　ちや葉ハみどり　かせや　風葉ハ堀江のこゝや　かゞやの
おそざかん　大小屋の不換金　ふり出しハたちばなや　撲牙葉ハあんぐの
久炭　ひぜん葉ハ小山まるや　乳葉ハあんどじ町　産前おさんでの葉ハ
小の新地　同年寄ハ入のとし　吉屋　歯葉ハ森三郎　ゆびくすりハ
ふくろ町　膏葉ハ　雨森　冥ぞうけんさい　沖葉ハ　白龍香　眉より
うへハ中橋　臍より下ハ江戸堀　黒焼ハ高津　小児ハ　座摩の又香
三そうの葉山　何でもきくのハ正勢散　取次屋でハ　天満の小山屋
砂糖屋ハ
ゑびを講で　櫻井屋　大く講て　小治屋　平想
材木屋ハ

近付　平清　熊野屋　長三良　加金　紫田冨　吹五徳中屋
舩板ハ　吉兵衛　帆柱ハ　新文屋
鉄屋ハ
言市　堺佐　堺七　紙治　百孫　紙七　太小屋　津川　麝香
髪附蝋燭小間物ハ
小倉屋　備後屋　細微香　由男香　松民　虎屋　ひげ油
白粉ハ　銭長　田端屋　丸屋　奈良吉　都利堺　笑龍香
紅粉ハ　都安　松喜　小町　さくら　むかり
鬘屋ハ　ゑびすや　三井　いせや　赤り清
時屋ハ　近佐　数寄屋ちやくハ八幡屋

晒蝋屋ハ　亀屋　柏屋　銭屋　蝋燭ハ塚万　金八
質屋ハ
平喜　紙利　手嶋屋　越後屋
薪屋ハ
ざこや　さのや　すや　井筒屋
炭屋ハ
辰巳屋　川俊屋　木津屋　堺屋　炭之　利市　河嘉
油屋ハ
津彦　亀吉　信濃屋　のまや　梅花新
味噌屋ハ　いづ彦　大源　志らまづや

酒屋ハ
长あや　土佐屋　塩清　山屋　よど川　かも川　志ら梅　有明
白酒ハ下雪町　菜酒ハ住市
醤油屋ハ
ふじや　河又　石川屋　かじまや　いせ屋　志波や
酢屋ハ　丹波屋　小クゼ　粉川　きく川
茶屋ハ
かさ治　かさ安　ふきや　茶吉
雑具ハ
戸障子　てしまや　のざや　ゑちごや

指物師ハ　石寺文右衛門　戸棚ハ　生玉
箪笥長持ハ　ゑり兵　つぼや　かうらやハ　あさ治
桶屋ハ　石ちの茂兵衛
佛壇屋ハ　庁上屋　明石屋　大吉
佛師ハ　田中　椿井　陰水　赤尾
傘屋ハ　小橋清　天治郎　菅笠ハ　天六　三宅や　三田屋
下駄ハ　本町　菜本　ひしや　玉造　草履ハ　つち伊
琴屋ハ　山吉　山八　ゑり吉
能道具
香具ハ　山三良　さめや　伊勢屋　京屋　玉造七　沢屋

香堂屋　角作　塗物ハ　紀文　木伊　名手屋　臭庄
建具ハ　若く　沢屋　茶道具ハ　加賀作　広動谷　堅
塗師ハ　室兵衛　大佃　蒔絵ハ　ぬし安　あかつめや
蒔絵師ハ　斉庄　桔梗小　東三　沈金彫ハ　一力右衛門
瀬戸物屋ハ　吉田や　淡路屋　伊勢屋　ささや　木林
楽焼師ハ　玉川　磯石河ハ　堺仁　ゑり九
墨屋ハ　古梅園　石上　箆師ハ　かさ　吉さぶ　吉こ　谷村
人形雛ハ　小濱屋　綱屋　大和　弥兵衛　矢立ハ　小兵衛
ミセ物屋ハ　源兵衛　ゑり長　平八　伊兵衛　こんぶ　鳴川
山本屋　枚岩屋　たばこ入ハ　八幡治　ゑり安　袋物ハ　八忠

扇屋ハ　玉露堂　文泉堂　玉や　忠兵衛　河勘　天平
石硯ハ　前川　彫物ハ　藤七　絵馬ハ山岩本　為孫
板木ハ　金玄堂　市田　宗右衛門　摺物ハ　村九　江戸半
本仕立ハ　表紙又　絵具ハ　絵吉　絵勘　忠の吉
表具師ハ　堂の内　川嶋　坂本　釣道具ハ伏吉　木津屋
三弦ハ　笹又　あぐさや　亀屋　弁吉
鉄金物ハ
川瀬屋　鉄屋　塩屋　木津屋　玉屋
吹屋ハ　金嘉　金久　金九
鋳物師ハ　大谷　西村　仏具ハ　近江屋　河又郎

力業
深く掘く左手はいづれおとらぬ人々あまたあれとこゝに略す
名高きハ
薩摩の與八　ぶぜんの平八　さゞの孫三郎　せんだて平吉
拳の達者ハ
道修町の奥屋　平の町のなだや　吉八　尼平　又雀　よし松
松安　昆丑　吉孫　いづ平　松平　山乱　鶴又良
軍学講釈ハ　天山　一條
辻〔咄〕ハ　仙助　十三
謡〔曲〕ハ　京之助　小志ん

あし火き難波人とよみし時ハいさ志らで出私
子誂入に称子ぞうの今ハ賑ひあきなひのきう来り
諸職の悉くニ諸藝の蘊奥風雅のあそびその
上手なるひとしく八淀川の水ハ尽ぬ絶せで清爺
諸ざの其数ハまさごのつきせ称ハごとしくこ好る
ことのあさゆで雑紙しも志かね好むく筆ハあおみを
納菜次第の称も多きハ一をあゆるところハ好士の数へ
録続ぐしとなるハ堀江のきしよ舟をとき
これと志るす

馬
乃御術ハ武家の藝なれとも町家よ是をまなむ人多き
大坂中　論武　求る　勇義　俊平
黒人業で八
碁和丸　亀杢　三蔵　長又郎
盆石
盆山ハ風流あのずまよ立よせて楽しむ路銀ハそのかは
さなくさとあえしで名家ハ
村上ある　瀧榭軒　鴨石軒　指屋
築山ハ　拵屋東伲　おくむら　茶屋　植物ハ　扇太

浄瑠璃

上るりハ小野のお通が浄瑠理が第十二段を作てかたりそめ

こしより是ニ節を付てかたりしより浄るりとハいひならはせり

近松ハ近世海音を始として文弥国太夫角太夫伝泉蔵経

表具屋多や其外さまぶしきとさまぐありしが今義太夫

ならしと唱ふる事其名の冠れるなるべし今素人での妙音ハ

木津太 松坂 一水 岳子 嶋吉 福市 文楽 大象

文亀 倭菊 鷲亀甲 老松 松平 大九 文林 錦六

一枝軒 今五 今富 の大 金平 一口 鯉万 谷二

吹李 亀吉 大二 閑多 丹与 大丸 去橋 順四

李冠 田男 仙人でハ大伊勢

太夫でハ

梓太夫 内匠太夫 弥太夫 越太夫 咲太夫 巴太夫 磯太夫

八重太夫 此太夫 紋太夫 錦太夫 氏太夫 湊太夫 式太夫

綱太夫

三弦ハ

友治郎 正蔵 文八 よし吉 京七 三毛屋 勘治

橘 弥吉 金蔵 兵作 鶴正 外定 長宗

林八 本治郎 錦伊三 嵐猪三

黒人でハ

清七 松之助 伴左衛門 三二 吉之濤 宗七 勝治郎 駒吉

素人操でハ

炭又郎 つち 近江 紀伊 角平 中村屋 哥右衛門

手すりでハ

重五郎 門蔵 彦吾 千四 吉五郎 蔚十郎 東作

三吾 勢蔵 東十郎

能者でハ

柳 芝 河四郎 千葉 湖水 姫新

からくり人形ハ

大江 柳 亀谷

哥舞妓

かぶき狂言ハ出雲の阿国がおどりを始て花洛四条の繁昌
東武三町のかぶきハ京大坂伊勢名古屋其外の国々を
いへども流行もあれどもそれ浪花座と人形の顔見世の見物でき
二の替りの春の花やか余所の及ぶ所にあらざるとぞかるも
芝居贔屓ハいも南京とて婦人の愛する事の随一にして
当世若者好まる若さまにあらしある粋家ハ芝居の諸鏡
のちまでもおぼゆる事にまくら彼らを動くる者あるの
操ハ各提させる物好ハいとまうし又ハ造り花を籠に入て
役者中へ送る物ずきいろ/\ありて風流さまざまも好手を揃ま

熟しりしらざるハ雑の家とびしハ物ちくのし其
客人ハ　まどう　百岳　らく　加押
𛀁いき連中ハ
大手ハ　大五　利八　茂三　十楽　大源
笹瀬ハ　俵万　八左　万新　きく　あゞ吉　ろおく
茂石ハ　かハ源　木村　正三　三蝶
さくらハ　善助　雪石　加石
ざこだんて　市八伴　いさ紋　神崎屋　茶久
大連中で　かし林　平清　嘉平次
紅掛で　加鉄

まん井茶屋ハ
ざこだハ　居セ　紅掛ハ　おん源　大連中ハ木市　茂石ハ
大清　さくらハ　大利　さとせハ　杉本屋　大手ハ　青木や
素人ハ歌舞伎の中でハ
前田　紀作　すゞ吉　松原屋　善幸　宗吉　つち宗
ト二　すし熟
当時の役者ハ
嵐吉　行品　いろは　友吉　諸人株でハ　玉太郎　団蔵
為十郎　功者ハ　鯉三郎　小手の利くハ　斎右衛門　三五郎
立廻りでハ　大友　工右衛門　若手ハ　菜三　一港　大五郎

奥治郎　眠猫　八蔵　猪三郎　寄斎あすゞめ
金蔵　兼治郎　抜ていずでハ　文五郎　彩ら女　蓮若八
八百蔵　三十郎　升治　幺太郎　山左　来助　雛松
久米太郎　蓬九郎　名物ハ　松五郎　吉羽　古今新京でハ
今七　三保吉　為太郎　江戸正
中芝居でハ
百村　伴蔵　文蔵　童太　岳之助　谷村　上手方でハ
婦川　楯蔵　与市　京太郎　だいだ　松女　水木
若手ハ　斤吾　桐治　吉松　松玉　清蔵　猪三郎
女形ハ　園市　きく八　咲蔵　吉蔵　吉太郎　字源太

小むらさきでハ　あやめ　吉りでハ　友三　玉蔵　京蔵
子供衆でハ
国之助　斧松　あか虎　巳之助　春蔵　小市　ごとしか
紋三　亀雲　仁三郎　十太　門三　菜蔵　岩吉　佐之助
万太郎　坂田
俳優ハ　万作　徳三　七五三松　鶴助　正三
ちよぼハ　留太夫　斧八　万里
宮薗ハ　文字太夫　三弦ハ　鶯孔　右造
大工ハ　角玄濤　古今未曽有の良匠也
彩色ハ　弥七　平七　宗七　庄七

看板ハ 堂玄涛 九右衛門　鬘ハ 大生玄涛 小生玄琢
人形細工ハ 大江 柳　假り花ハ 花八 生玉 今文
衣装屋ハ 八百三 きり弥 三雲屋 池田屋
蝋燭屋ハ 近八 土佐八
芝居の銀主後楽花の風流をあらハし 素人落語之手本ハ手を
岸庄 泰彰 伏見 讃岐 八百三 河平 河武
手代ハ陽気の中にも篤実ある者なり 必及ひしハ
角よ 喜三郎 伊之助 中よ 吉右衛門 仙玄涛 友玄琢
角丸で 定七 勘兵 小新地よ 庄七
木戸番ハおもしく 泣よ 似せ花る踏をえらん かぶり物を

ちん行儀を守る事正しく頭取なる者ハ
中で金四郎 角で源玄涛 竹田で浩之 角丸で弥助
若主ハ文右衛門 大西で伊玄涛 市の側で弥助 旧新芝居
庄八 荒木で庄玄涛 小新地で蔵玄涛 此外大ぜいの
表方の中よ 中の芝居よ 笠七 和助 十兵 利兵へ
利助 角の芝居よ 高清 友吉 友助 大平
無縁ってふものハ一目も赤めねどのをいらかしつかしづきよ見
場よこちびきの割子もへあげどもすでとて何をさせいと神んで
あり芝をいちむとして名をうせるは田舎人などの目が
手なるもいとをかし

筆ヶ
扨 志も 座頭さよ おつや おまさ お茶子 おとみ

俄

近ごろハお様の手わざをすゝきさ餅搗節つくり拍子も
四谷より出たるハ四時てうちねあそびとあまり

弁連 志げ 三吉 吉八 文八 為又郎 被丟

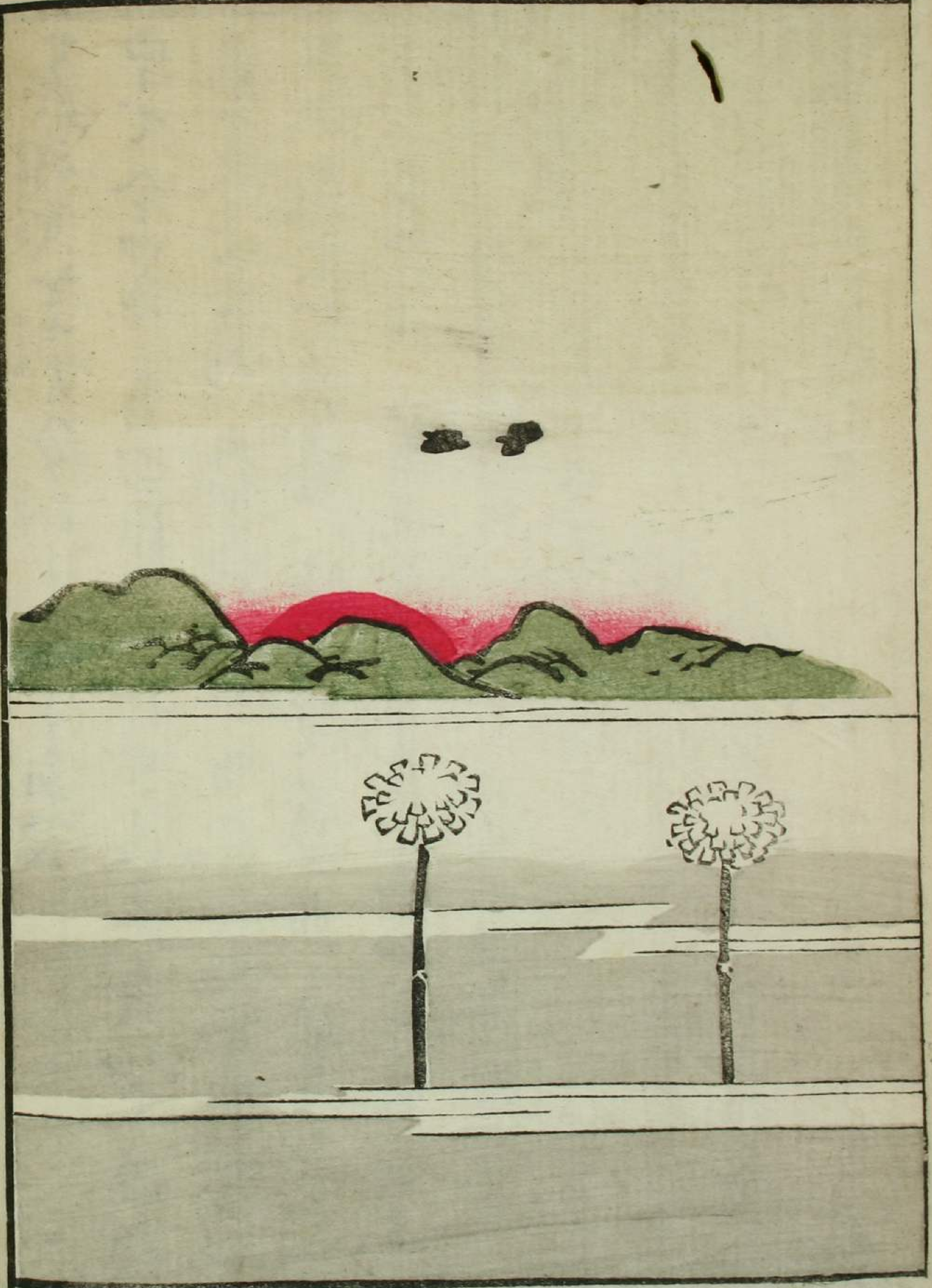
かいる 新吉 色子 木地万 八百吉 一鳥

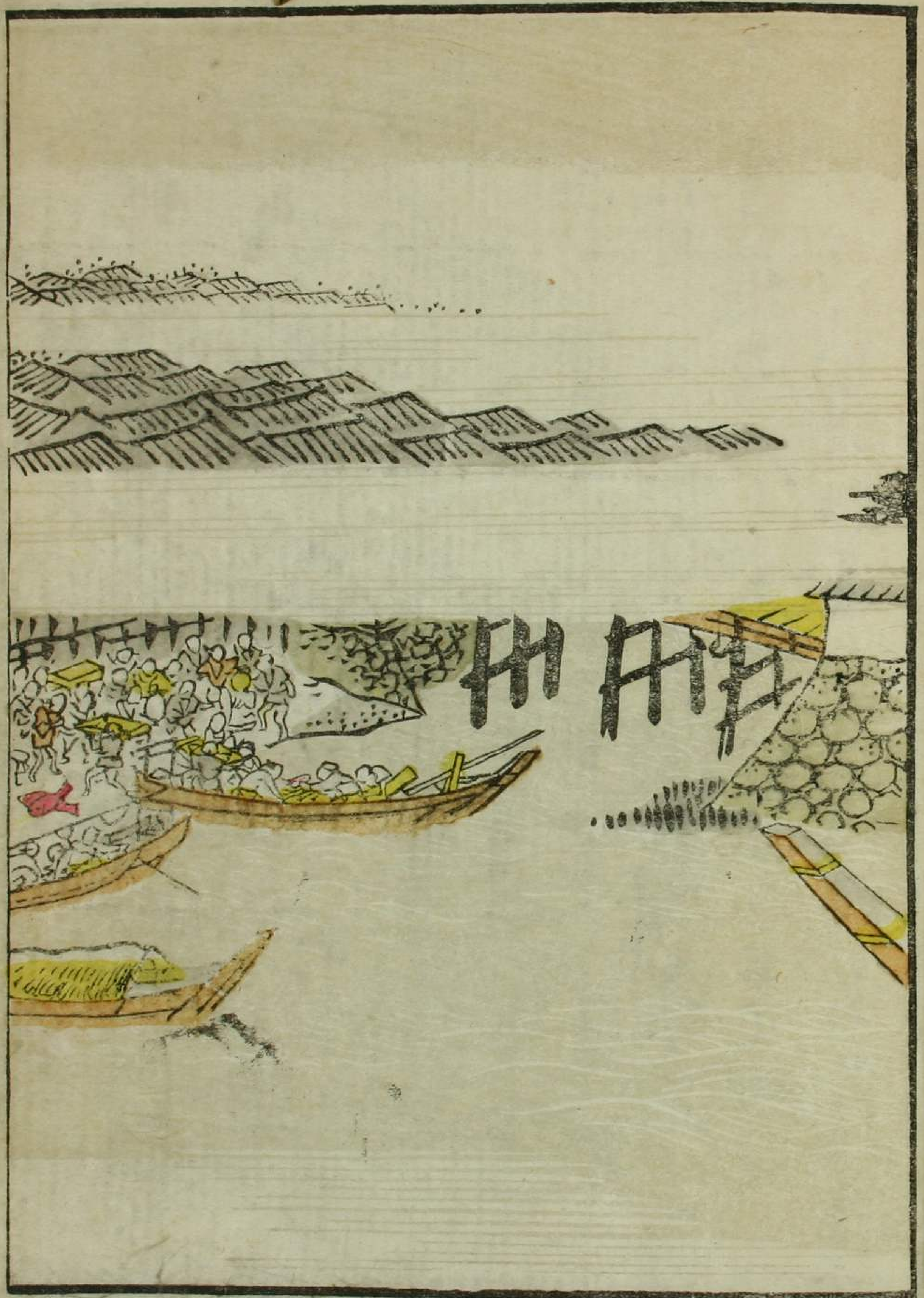
躍八 栄六

噺八 大万 筆売 ちん亀 一九 東々 九幸

九光 大川 座でハ 沐助 文治

拍ま孫八 てん安 うた安 座でハ 球八 东 小吉 正藏





跋

長寿軒背負奥人皆の野良家ふ入て見れバ案上ニ
而冊乃小冊あり閲すれバ浪花の人物を記
せり其口評論の難解なる事の甚しく是非
好士ニ見せて判ぜられざるなし抑八面ふかくんと
寒山り袖しとくのへり浪花ちまりと題し玉善の
ぬしふおく採木ニ誂ん事をすゝむるもひとり
巨燵のもとニ丸ひろ声呂る世の辨道を友とせバ
千金の價あらんと志のぶふうるてやハく
みづのとしいぬの初春

伊津 普笑語

享和二年
壬戌正月吉日
南紀玉善